

会議録（要点記録）

第1回堺市南区教育・健全育成会議	
開催日時	平成29年4月21日（金）午後6時00分～午後7時50分
開催場所	南区役所 2階 201・202会議室
出席委員	中村会長・外村職務代理者・大台委員・竹井委員・三木委員
欠席委員	なし
事務局職員	南区役所 石井区長・隅野副区長 金岡企画総務課長・吉田課長補佐・船津主幹 内山係長・田中係員 和田相談員・前田相談員・田中相談員
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 南区長挨拶 3. 委員委嘱 4. 委員・事務局紹介 5. 議事（1）堺市南区教育・健全育成会議について （2）会長・会長職務代理者の選任について （3）平成29年度の審議依頼について 6. 報告 <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度 南区教育・健全育成相談窓口 相談内容について ・その他 7. 閉会
配付資料	<p>【資料1】堺市南区教育・健全育成会議委員名簿</p> <p>【資料2】堺市区教育・健全育成会議条例、条例施行規則、概略図、平成28年度実施事業等</p> <p>【資料3】家庭・地域における教育・健全育成に向けた取組（健康的な生活習慣と体力向上に向けて～子どもが自ら考え行動するために～）についての提言書</p> <p>【資料4】南区親子の生活・運動習慣等調査 報告書 概要</p> <p>【資料5】南区の学校等の状況</p> <p>【資料6】堺の教育</p> <p>【資料7】平成28年度 南区教育・健全育成相談窓口 相談件数一覧</p>

1. 開会

事務局

定刻になりました。ただいまから南区教育・健全育成会議を始めさせていただきます。

本日は何かと御多用中のところ御出席を賜り、まことにありがとうございます。私、本日の司会を務めさせていただきます南区企画総務課長の金岡でございます。よろしくお願いいたします。

まず初めに、本日は委員全員の御出席を賜っておりますので、本日の会議は成立しておりますことを御報告いたします。また、本会議は公開とさせていただきます。

会議録を作成するに当たりましては、正確を期すためにも議事内容について録音をさせていただきますので、何とぞ御了承ください。

それでは、次第に沿って会議を始めさせていただきます。初めに南区長石井孝美より挨拶をいたします。

2. 南区長挨拶

石井区長

皆様、こんばんは。南区長の石井でございます。本日は御多用の中、また夜からの開催ということで委員の先生方にはお集まりいただきまして、ありがとうございます。本日は第2期のスタートでございます。また29年度の第1回でございますので、簡単に御挨拶申し上げます。

27年度にスタートいたしました教育・健全育成会議ということで、この2年間、家庭・地域における教育・健全育成に向けた取り組みについて、特に親子のつながりを軸足に熱心に御審議いただきてまいりました。今のこの時代、子どもたちが健全に育っていくにはインターネットであるとか、スマホであるとか、情報の氾濫などもあり、ハードルが大変高い時代になっているかなと思います。子どもの貧困問題であるとか、居場所づくりであるとかというのも大変クローズアップされているような状況でございます。一方では、昨年度行いました親子の生活習慣や運動習慣等についても調査結果を見ますと、大半の親御さんは、形は少しずつ違っても子どもと向き合っており、一生懸命、自分なりの子育てに励んでおられる、取り組んでいただいているということもわかってほっとする反面、一部ですけれども、改善に向けての働きかけが必要などころもございます。思春期特有の難しさもあるのかと思うんですけれども、特に幼児期であったり、低学年に対してはスキンシップであったり、また子どもの話を聞くことなんかも親御さんは大変大事にされているなということを感じております。

また後ほど、今年度の審議依頼をさせていただくんですけれども、そういった中、委員の先生方には南区の子どもたちの健全な育ちの応援であるとか、親への支援であったり、教育環境の整備につきまして、それぞれの御専門の立場から御意見をいただければと思っております。

南区といたしましても、教育委員会や学校、そして地域とより連携を深め、区教健で御審議いただいたことを少しずつでも具現化してまいりたいと思っておりますので、どうぞ御支援、御協力賜りますようお願い申し上げます。第2期のスタートに当たり、私からの御挨拶とさせていただきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

3. 委員委嘱

事務局

それでは、会長が選任されるまで、事務局が次第に沿って会議を進めさせていただきます。続きまして、委員の皆様の委嘱を行いたいと思っております。

区長の前にお願いします。皆様、一人ずつお名前をお呼びさせていただきます。南区長の前にお越しく下さい。なお、委嘱書の交付は50音順とさせていただきますので、よろしくをお願いします。

(各委員に委嘱書の交付)

4. 委員・事務局紹介

事務局

ありがとうございました。続きまして、委員の皆様に自己紹介をお願いしたいと思います。資料1、委員の皆様の名簿を添付しております。お名前を順番にお呼びいたしますので、一言自己紹介を、よろしくお願いいたします。

大台委員

失礼いたします。大台賢史と申します。日ごろは堺市で、教育委員会に所属して、スクールソーシャルワーカーとして活動させていただいております。小学校、中学校で、先生方とお話しさせていただきながら、子どもたちの学校での生活でありますとか、または家庭での生活について先生方と検討し、よりよい環境を調整するために活動させていただいております。そういった中で出会ったいろんな子どもたちや保護者さんの思いでありますとか、日々活動を通して感じていることなど、どこまでお役に立てるかわかりませんが、精いっぱい務めさせていただきたいと思っております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

外村委員

外村昌子でございます。私は、元PTA会長ということで、小学校のPTA会長と中学校のPTA副会長を兼任させていただきました。3人の子どもがおりまして、その子育ての経験であったり、御近所のお子様の様子であったりというところを、この会議の場でお伝えできたらと思っております。

また、森ノ宮医療大学で看護師の養成にも携わっておりますので、青年期に入った子どもたちの悩みであったり、それまでの生育における問題点などを日々感じることもありますので、その点についてもこの会議でお役に立てたらと思っております。よろしくお願いいたします。

竹井委員

竹井恵子と申します、初めまして。私は平成23年3月に福泉中央小学校を最後に定年退職いたしました。その後、孫の世話で家に入りました。今、2歳と6歳の孫の世話をしております。現任中、大変皆様にお世話になりましたので、いろんなことをさせていただきたいと思ひまして、自治会の役だとか、学校協議員、堺市教育会とかお声がけいただいた中で、自分のできる範囲でさせていただいております。何しろ、現役を退きまして

7年目を迎えますので、どれだけお役に立てるかどうかわかりませんが、不安でいっぱいですが、現任中は安全・安心、夢をはぐくむ学校づくりということで取り組んでまいりました。子どもたちの様子を思い浮かべながら、そしてまた今、子育て真っ最中ですので、そういうことも鑑みながら発言できたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

中村委員

失礼いたします。皆さん、こんばんは。プール学院大学の中村と申します。普段は、大学におりまして、同じ南区内の大学の教育学部ということで、保育士、小学校の教員、中高の保健体育の教員、養護教諭、それから特別支援教諭の育成に携わっております。私の研究の専門が、子どもの発育、発達、健康、教育、スポーツ医学という領域で、この会議も2年前から参加させていただきながら専門的な見地というよりは、様々な南区が抱える教育的課題に対して、どのように取り組めばいいのかということで、先生方と議論を重ねさせていただいております。大変有意義な時間を2年間過ごさせていただいたおかげで、今回2期目ということで、どれだけの力添えができるかわかりませんが、全力を尽くして頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

三木委員

三木といいます。普段はスクールカウンセラーとして相談のほか、不登校の子どもたちや親との面談をしております。最近は暴力行為なども増えてきていて、そのような対応を先生方と一緒に考える活動をしています。資格として、臨床心理士を持っていて、主に心理面からの発言などをさせていただければと思っております。よろしくお願いいたします。

事務局

続きまして、事務局の紹介をさせていただきます。

(事務局出席者の紹介)

それでは、会長が選任されるまで、事務局が次第に沿って会議の進行をさせていただきますと思っております。

(資料の確認)

5. 議事

(1) 堺市南区教育・健全育成会議について

事務局

(資料2に基づき、堺市区・教育健全育成会議条例、平成28年度の実施計画、相談窓口、実施事業について説明)

(2) 会長・会長職務代理者の選任について

事務局

(委員の互選により中村委員が会長に選出)

(中村会長が職務代理者に外村委員を指名)

(続いて中村会長から就任の挨拶)

(3) 平成29年度の審議依頼について
(区長から中村会長へ審議依頼書を朗読後交付)

中村会長

ただいま、堺市長、教育委員会から審議依頼を受けました。審議依頼のテーマでございますけども、委員の先生方のお手元にありますように、家庭・地域における教育・健全育成に向けた取り組み、学習意欲の向上と生活習慣の定着ということでございます。この審議依頼を踏まえまして今年度の取り組み等につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

事務局

(資料3に基づき、平成28年度の提言書について説明)

(資料4に基づき、南区親子の生活・運動習慣等調査の報告書の概要版について説明)

(資料の5に基づき、南区の学校等の状況等について説明)

(資料6に基づき、特色ある堺の教育について説明)

中村会長

ありがとうございました。事務局より御説明がございました。さて、この提言書及び昨年度の調査を受けまして、基礎的な生活習慣の改善に向けた取り組みや保護者への適切な働きかけ、子どもが安心できる環境づくりや学習意欲の向上について審議依頼を受けております。今回は初回ということで、この審議依頼を受けまして、委員の方々も新しい委員の方も入っておられるということもありまして、広く議論を進めさせていただければと思っております。

先ほど、事務局からも説明がございましたけれども、堺市南区の教育・健全育成会議、2年前から発足して会議をさせていただいているわけですが、2年間の中でかなりの成果が出てきていると思うんですね。設置の第1条に、「学校教育を取り巻く環境を整備し、もって子どもの教育及び健全育成の充実を図るため」というのが、そもそもの、この区教健の目的、設置の意味ということでございます。この学校教育を取り巻く環境整備という、この文言がキーになっていまして、学校そのものの教育問題をそのまま考えるということよりも、この2年間で議論してきたのは学校を取り巻く環境は地域及び家庭であると。つまり、子どもを取り巻く環境の中で、学校、地域、家庭の中で、この区教健で中核として議論してきたものというのは、家庭及び地域のことであります。その教育について考え直していきましょうという、そういうスタンスがそもそもあったわけでございます。

特に、この堺市という大きな市の中で、7区ある、その中で南区の特徴というのを、改めて見ていきながら、南区が抱える家庭及び地域の教育的な課題ということと、学校が抱える教育課題というものを、上手くつなぎ合わせながら、よりよい環境というのはどうあるべきか、そして具体的に施策としてどういうことが提案できるのか、そんなことを2年間議論してきたと考えております。よって、この2年間の審議の経緯も含め、これからまた2年間、委員の先生方には御苦労と、また例によって私がむちゃな御意見を願いますことも多々あるかと思っておりますけれども、この地域と家庭の教育をどうしていくかというところに、ぜひ軸足を持ちながら、かつ子どもが中心であるということ、やはり大人が議論していくと、どうし

でも大人中心の社会をイメージしがちですけれども、そもそも、この区教健の成り立ちから考えましても、子どもというのを中核において、子どもの視点で考えていかなければならないということを、南区では非常に重要視して議論してきております。特にこの、子どもを視点に、つながりというキーワードを、南区では非常に大事に大事にはぐくんできたわけですね。この2年間を振り返っても、市長や他区の教育・健全会議もございましたけれども、南区と言えばつながりをキーワードに議論していますよね。そういうふうと言われるぐらい、ずっと議論の中では地域、家庭、そしてつながりというところを議論の中核としてやってきているわけがございます。

その中で、昨年度は特に大きくアンケート調査ということを行いました。先ほど事務局からも説明がありましたけれども、資料4に概要版が出ておりますように、恐らく全国的にも非常に珍しい、かつ有用なデータというのが出てきております。これは南区に限ってのことですので、今後南区の子ども、そして家族、地域を考えていく上で、一定のエビデンスになってくるであろうということが数字として出てきていると。これは、私も関わらせていただく中で、事務局にも大変な御苦勞をしていただいたわけですけれども、議論がともすれば、人の思いとか感情で左右される傾向もある部分で、実際は、南区の家庭ってこうなんだというところをベースに考え得る貴重なデータ、貴重なエビデンスになっているものと考え、これらをベースにしながらこれから2年、また発展的に議論を重ねていければと思うところでございます。

この南区の調査、ご覧いただいて、また、御報告もありましたように、世帯からの回収率が非常に高いというのは、南区の非常に大きな特徴として、まず言及していい部分かなと思うんですね。回収率、今回44.

3%、何で100%じゃないんだというふうな視点ももちろんあるんですけど、実はこの行政が行う調査で半数近く回収率があるというのは非常に高いということです。やもすると、2割ぐらいの回収率で、本当に全体の傾向をつかんでいるのかどうかよくわからないというような調査も多くある中で、南区の子どもの教育、そして親子の生活・運動習慣に関する関心が、これほど高いということは、やはり南区の1つの側面、特徴の側面をあらわしているのではないかと。つまり、南区の家庭で教育に関心のある世帯が非常に高い割合でいるというふうに思うわけでございます。

中でも、報告書の8ページの家族機能の比較の部分で、家族機能というものを独自に調査しております。これは先ほどより申し上げておりますように、南区では、家族、地域のつながりを非常に大事にし、議論を重ねてきている中で、やはり子どもに生活習慣、体力、学力の責任を、大人が押しつけてはいないかと。子どもって、実は子ども自身が自分で育っていくわけではないと。子どもに何か足りないというものがあるならば、その子どもに目を向けつつ、子どもの成育環境そのものにも目を向けないといけないんじゃないかと。そういう視点から、子どもを取り巻く家族ってどうあるのか、これについての調査をしたわけですね。で、8ページに、この家族機能、今回南区では家族の団らんや休息、安らぎの場などの精神的な機能にしばって定義しております。すると、南区全体の家族機能を、20点満点で調査しましたら、36%が満点なんですね。これは他区の状況はよくわかりませんが、南区の家族の36.3%は団らんや休息、安らぎの場として満点の機能をしていると。これは高いように思うんですね。もちろん、このあたりの議論を含めながら、本日は委員の先生方にも

御意見頂戴したいと思っております。

さて、今年度の依頼を、もう一度そういう意味で見ますと、家庭・地域における教育・健全育成に向けた取り組み、これは今までどおりでございますが、サブタイトルとしまして、学習意欲の向上、そして生活習慣の定着と。この関係しているようでしてないような、してないようでしているような、2つのミッションを私たち、課せられているわけですね。後段の、生活習慣の定着につきましては、この2年間非常に活発な議論をしているところでございますし、また、今年度から竹井委員が新しく入っておられますけれども、まずはこの生活習慣の定着に向けて、南区のこれまでのデータ、そして先生方それぞれの専門的な見地から、南区の生活習慣の定着に向けてのコメントをまず各委員からいただきたいなと思っております。この2年間通じていつも、先頭を切って発言してくださっていたのは、三木委員でございます。三木委員、今年度もまた口火を切っていただければと思うんですけれども、いかがでしょうか。

三木委員

はい、よろしく申し上げます。やはり生活習慣の部分なんですけれども、アンケートでも朝御飯について、まず朝を食べている子がほとんどなんですけど、食べられていない子というのもたくさんいまして。想像なんですけども、その子は例えば朝起きるのが遅くて、例えば遅刻する子であったりとか、はたまたちょっと学校に行けていない子というのも含められているのかなと。やはり、その遅刻や学校に行けていないと学校での学習もできないので、学習についていけない、それが学習意欲にもつながらないということで、不登校をよく扱っていることもありまして、そういう学校に行けない、学校にちょっと近づきづらい子をどう学校に向けさせるかというのが、ひいては生活習慣を安定させること、学習意欲を向上させることにつながっていくのかなというふうに、ちょっとアンケートを見て思いました。

中村会長

なるほど。大台委員は地域と学校とそして家族をつなげるというスクールソーシャルワークの仕事をお専門になさっているわけなんですけれども、三木委員の発言も受けまして、またこれまでの審議も含めまして、この生活習慣の定着というのはどのように捉えられているのでしょうか。

大台委員

失礼いたします。本当にアンケートの結果を見させていただきますと、その家庭環境、また保護者さん御自身の生活習慣への意識でありますとか状態というのが子どもと直結していることが、はっきりとエビデンスとして見られたなというところで、私自身が日々活動している実感とも同じことになっているんじゃないかなと感じました。その中で、36.3%の回答された方の中では20点満点の家族機能だということですが、ひっくり返せば、それ以外の方々にはいろんな御事情があるとは思いますが、家族の中での時間をとったり、交流でありますとか、団らんのある時間でありまして、そういったところではまだまだよりよくなっていく、そういった幅があるんじゃないかなと思います。

私自身、出会う保護者さんでありますとか、子どもたちというのはそういった問題を抱えていく中でも家族との時間でありまして、家庭での生

活というところで、悩んでおられる方がたくさんいらっしゃって、その中でも生活習慣というところになると、先ほどの三木委員の話にもありましたが、朝食を1つとっても、保護者さんの仕事の時間帯によっては、子どもたちが用意されたものを自分で温めたりですとか、自主的にとって行かないといけなかったりですとか、ただお金だけ渡されて、それで買って学校に行く途中に食べたりですとか、食べられなかったりする状況も続いているお子さんもいます。精いっぱい家族としては考えながらされているんですけども、例えば僕の出会った中では、毎朝御飯を置いているし、用意もしているけれども、1人で食べやって促しても、なかなか食べないと。そういった中で、子どもの話を聞いていくと、やっぱり寂しかったりですとか満たされない中で、1人で食べることに抵抗していたみたいですしとか、なかなかそれが受け入れられなかったりしてというような話も聞いたりしました。

そういった中で、今、私が感じているのは、社会的な理解も深まっているような、子どもの貧困でありますとか、地域での声を私も聞かせていただくことがあるんですけども、地域の中で子どもたちに何かできることがあるんじゃないかと考えられたりですとか、または子ども食堂などもきっかけになって、形にできることがあるんじゃないかということで、今いろんな取り組みを検討されている方が多いんじゃないかなと感じたりもしています。私の仕事も学校と家庭をつないだり、子どもと家庭をつないだり、地域と家庭をつないだりという、つなぐというところをキーワードに活動させていただいているんですが、そういった家族の中での努力ではなかなか難しい状況を、地域の力を借りたりでありますとか、そういったところで補完していくような、そんなことも今後生まれていけばいいなと思っております。

中村会長

ありがとうございます。具体的な事例も含めて、今回の南区の家族のありようで、36.3%の方はすばらしい、何の問題もないと、アンケート上は答えている。その反面、裏返すと、家族機能の評価得点別スコアを見ますと、最低の点数の方々もいらっしゃると。こういったところの問題を考えますと、家族ではどうしても動かしづらい、そういった問題に対して、地域としてできることがあるんじゃないかと、そういう視点ですね。ここは非常に大切な視点かなと思う一方で、家庭ってやはりなかなか他者が介入しにくい、あるいは支援もしにくいような、そういう現状もあるのかなと思うんですよね。そこを、どういうふうに捉えていくのかということも、これから議論を進めなければいけない部分かなと思うんですけども。

どうでしょうか、竹井委員は今年度から委員として御就任されているんですけど、今の大台委員の御指摘に対して、教育現場、非常に長くお勤めだったお立場から、学校、あるいは家庭の問題に対して、地域やその第三者が、介入していくことの難しさというのは、いろいろ御苦労されたこともあるんじゃないかと思うんですけども、そのあたりの実例、あるいはお感じになっている点等、いかがでしょうか。

竹井委員

難しさもありますけれども、やはり働きかけていくと答えようという姿勢を見せてくださる保護者の方はとても多いです。家庭というのはやっぱり居場所があるということと、心の栄養をつくる場所であるということ

と、体の栄養をつくる場所であるという、大まかにいったらこの3つが、1番大事な機能だと思うんです。

確かに、ちょっと学校に来てから落ちつかない子どもさんとか、ある程度決まってくるんですね。その決まってくるお子さんといろいろ話をしていると、何を食べてきたって言ったら、朝食がガムであったり、お菓子であったりね、そういうふうなお子さんもいるんです。だけど、その保護者の方はそれでいいとは思っていないんですね。やっぱり話をしていると、子どもさんが食べようと思ったら食べられるように、ちゃんと用意はしているんだけど、子ども自身がいろいろな、これも生活習慣に絡んでくると思うんですけれども、時間的に早く起きられなかったりとか、それから身支度がさっさとできなかつたりとかで食べていってくれないというふうな子どもさんもいますね。

それは学校教育の中で、家庭科なんかでね、その栄養を摂取することの大切さとか、あるいは生活の中で朝御飯をしっかり食べよ、そうしないと脳が目覚めないんだよとか、そういうふうなことを、まず子どもさんに話しかける。子どもさん自身が朝食をちゃんと食べてこようというふうに思って、そしたら親に働きかけてくれる。親御さんもそれに、一緒に食べることはできないという親御さんも結構いらっしゃるんですよ、これはもう仕方がないことなんです。孤食だとかね、いろんな問題視はされていますけれども、それはもう家庭の事情でね、認めざるを得ないんです。認めただ上で、子どもさんが自らね、必要だと思って、食べるための時間を確保する。で、親はその支援をするというふうな、そういう回り回ったようなことしかできないんですけれども、やっぱりそこら辺は訴えかけて認識をしていただく、高めていく方法をとってきたんです。それで成果があったかと言ったら、いろいろスクールソーシャルワーカーさん、スクールカウンセラーさん等にお世話になっている場合もあって、それが大きな輪になっていく場合もあるんですけれども、学校は全体としては、そういうふうな働きかけで進めてきたんです。

中村会長

学校のお立場から発言されるというのは非常に新鮮です。これまで、学校の当事者であった方からの発言が、この委員の中で、いなかったというのがありますけれども、今回新しい御意見が聞けるなとすごく期待しているところでございます。ありがとうございます。

今、お話しになった、家庭に目を向けますといろいろな問題があると。問題があるから地域の力も必要だと、あるいは行政の力もあるんでしょけれども、しかし、いろいろな家庭の事情っていうのもやっぱり厳然たる事実としてあると。そこに、竹井委員がおっしゃるのは、子ども自身が変わる。子ども自身が、例えば朝食であれば、朝食の必要性を感じ、そこから動き出す、そういうことをおっしゃっているということですね。すごい新しい視点だと思うんですよね。

外村委員、どうですかね。この子ども自身が動いていく、そして家庭が今までできていなかったところに対して、子ども自身で発言をし、そして生活習慣を整えていく。これ、実際には家庭の中っていうので、非常に何か難しいようにも感じるところもありますけれども。そのあたりで、何かコメントございましたらお願いします。

外村委員

子どもから親に働きかけるというのはとても有効だとは思いますが、子どもが親に気を使う、例えば、朝食にしても、そんな話をするのかどうかはわかりませんが、うちはこんな用意されている、うちはこんなでということ、他意はないにしても、あれ、そんな朝から出へんでって思ったりするときに引け目を感じないのかなというのを少し考えました。それはおうちによって事情があって、もしかしたらお母さんが朝出かけて行かざるからおにぎり1個だけの朝食であるかもしれないし、お母さんがおうちにいらっしゃったり、余裕があったらそれにおかずがつくということももちろんあるでしょうし。パンだけとかいうときに、それで子どもが引け目を感じないのかなというのをちょっと思いましたが、ただ親としたら、子どもにしっかり御飯を食べてほしい、午前中の授業に向けてね、何も食べていないというのはよくないというのはわかっている、アンケートにも出ているように家族機能が高いであれ、低いであれ、差はありますけれども、皆さんやっぱり毎朝、朝食を食べさせるということに関してはすごく視点を置いていられると思うんですね。

そこを評価した上で、じゃあどんなふうに進めていくかということ、竹井先生がおっしゃったように、子どもから親へ働きかけるというのが非常に重要やと思います、そこだけでは弱くって、親に対してもその必要性を何らかの形で伝えていって、食事の重要性というところをお互いに見つめていかなあかんのかなと思いました。というのも、学校に行って、うち、今日パンだけやったって言ったときに、うちはサラダもついてたとか、スープもあったとかって言われたときに、その子、どんな思いをするのかなというのをちょっと考えました。自分が朝起きるのが遅くって食べられないという事情ももちろんあるとは思いますが、とするとその遅く起きてしまうという背景にはそのおうちの生活習慣のリズムがきつとあるんでしょ、そこから直していくとすると、やっぱり親の生活への働きかけということも重要なんじゃないかなと思いました。以上です。

中村会長

ありがとうございます。竹井委員、外村委員がおっしゃることは本当にごもつともです。もちろん、竹井委員は子どもだけがやればよいという、そういう視点で言っているのではないとは思いますが、ただ一方で、外村委員がおっしゃるように、子どもが気を使うという、この視点もやっぱり大切でして、堺市の、子ども向けの7つの約束というのがありましたよね。これはもう学校単位で非常に強く指導の指針にもなっておろうかと思うんですが、実はこの2年間かけて、子どもの7つの約束に相当する保護者の約束も考えて提示してはどうかという、そんな議論にもなっていて、子どもを取り巻く成育環境が、子どもの考え方、あるいは生活習慣に非常に強く影響を及ぼしているというのが今回のデータでも明らかになっているという側面を考えると、次回以降、南区版、あるいは堺市版の親の7つの約束みたいなものが提言できれば、子どもも親もそれぞれ相互的に生活習慣を確かなものにするために、一つの指針が出てこようかと思うんですね。

また、このあたりにつきましては、次回以降、掘り下げて議論ができればいいなと思いますので、ぜひまた議論を深めるために御尽力いただければと思います。

さて、そしてもう一つ、ありますね。学習意欲の向上と。これにつきましても、少し委員の先生方から議論いただきたいんですけど、この生活習慣の定着と学習意欲の向上と、この学習意欲って難しいですね。恐らく、単純に学力を上げましょうという話ではないと思うんですよね。もちろん、堺市の学力、そして体力、体力は今回テーマには上がっていませんけれども、教育的課題はありますよね。それは、比較の対象としてよく用いられるのは、全国の調査と比べてとか、そんなことで言われるわけですけども、そういったところの学力を向上しようというようなテーマ設定ではないと思うんですよね。恐らく子ども自身が、一人一人が学ぼうとする力、その根源をどういうふうに養っていくのか、そういうような視点なんだろうなと思うんですよね。

この学習意欲を向上させようというこのテーマが起こる背景には、恐らく、学習意欲が低下しているんじゃないのとか、学習意欲に問題がある子どもがいるんじゃないのと、そういう視点があるからこそ、出てきていると思うんですよね。

さて、いかがでしょうか。この学習意欲って低下しているんですかね。

それぞれ教育現場に関わっておられる方、それからPTAで長く教育問題を直視されてきたお立場から、まずこの向上をうたうその前に、子どもの学習意欲って、今どうなっていると率直にお考えでしょうか。

竹井委員

教育現場にいましたので、もうまさにこれが大きな課題なんですけれども、この学習意欲の中身なんですよね。

子どもたちは、いわゆる学力調査でもA問題、B問題とありますけれども、A問題的な学習だと、その家庭学習においても結構みんな真面目にやってきます。ところがB問題的な課題になりますと、もう本当になかなか自分でできないと、そこが大きな悩みでした。それは、学校教育の中でも、自ら考え判断する子ということで、もう随分前からその教え込みという形じゃなくて、自分で自分の考えを自分なりの表現であらわして、議論を通して集約していく。そしていつでも使えるいい方法を見つけていくというふうな形で、それが公式であったりするんですけども。それを見つけて出すという授業を大事にしてきてはいるんですけども、そういう中身のことが家庭でどんなふうに行われるかなということなんです。だから自分で本を読んでみようとか、自分で何かを調べてみようだとか、好きなことをつくっていけば子どもはどんどんやるんですけども、なかなかそれができない、テレビに依存したり、ゲームに依存したり、そういう時間の過ごし方をするというところで、結構難しい大きな課題であるというふうに思います。

それとちょっと先ほどの話に戻るんですけども、朝食のことで、外村先生が抱いていらっしゃる朝食内容のイメージと私が抱きながら話したイメージは違う。もう何しろ、食べてきたらいい、パン一つでもおにぎり一つでも食べてきたらいいという、そういう段階であるということがちょっと違うなというふうに思いました。

中村会長

ありがとうございます。

今、御発言にもございましたけれども、この学習意欲、学力とはやっぱ

りちょっと線を引いて考えないといけませんよね。

A問題、B問題にかかわる話も出ましたけれども、委員の皆さんも重々御承知おきのとおり、2020年から学習指導要領が変わりますね。この中で新しく言われているのが、アクティブラーニングという自発的で対話的な深い学びというような定義づけされていますけれども、ここがまさに自発的な学び、この学習意欲といったところとつながりのある、そういうことなんだろうなと思うわけですね。

この「学ぶ」ということ、そのものの質を変えていこうという全体の枠組みの転換期に今あるわけですね。先ほど、竹井委員がおっしゃったように、解きやすい答えがある問題から、自分の中で課題を、問題を見つけ、そして問いを立て、そして、その問いに対して解決する、そういった能力を育むような、そういう段階をどういうふうに育てていくのか。学力、学習意欲、そのものとのとらえ方というのは、随分変わるだろうというふうに感じますけれども、やはり大分疲弊していますかね。

学習意欲、そのかつての学び、そしてこれから行こうとする学びの中で、カウンセリングを重ねる中でお感じになる部分はございますか。

三木委員

最近の傾向ですけれども、興味の限定性ですね。やはり今はインターネットであつたりとか、スマホのアプリなんかもそうですけど、自分の興味のあるものっていうのが幾らでも検索できて、その中で幾らでも生きていける。なので、世界が広がらないというのがすごく問題かなと思うんです。自発性という言葉もありましたけども、やはり新しいことを知っていき、知る喜びというところから自発性って生まれると思うんですね。それが今、その興味がすごく自分の好きなものところだけで生きていけるので、その小さい世界の中で生きていってしまう。そういうところが学習意欲の低下につながっていくのかなと思います。

心理の世界で心理劇、サイコドラマと呼ばれるものがありまして、その中ではいろんな役割、今の自分自身だけじゃない、例えば父親になってみたり、母親になってみたり、犬を飼っている人、はたまた椅子になってみたり机になってみたり、いろんなロール、その役割をとっていくんですね。その中でこの役割から見ると、こんな気持ちになるんだ、こういう思いがあるんだみたいなどころから、いろいろなことを知っていく、いろんな側面に気づいていく、そこから新しいものを知る喜びになっていくというものが出てくると思います。

数年前から、学校でも職業体験であつたりとか、学生だけじゃないいろんな役割をしていこうという傾向があるんですけども、何か自分の自発性というものは大事にしないとイケないと思っていまして、そういう職業体験というのも、カリキュラムの中で決まっていると、子どもたちにとっては、ロールメイクじゃなくてただのロールプレイ、流れていってそのままロールプレイをして終わっていくという、やっぱりそうやっていくと自発性にはつながらないと思うんですね。本当の意味でのロールメイク、ロールをとっていきというのがそういう新しいこと知っていく学習意欲につながっていくんじゃないかなあと思います。

中村会長

非常に興味深いですね。役割を一旦体験することによって気づく視点で

すよね。すごく重要な視点ですよ。自発性、自発的な学びとか言いますけれども、本当にその根源的な学びたいという意欲というのに気づくことも大変だと思うんですよ。恐らく、幼少期というのは学びにあふれているその段階がありますよね。でもどこかでそれが何らかの形で傷ついたり、疎外されてしまうんでしょうかね。

大台委員、どうですか。子どもの学びと実際にいろんな問題を抱えて、そういう子どもたちと対峙されていると思うんですけども、やっぱり学びそのものに問題があるように感じる部分というのはありますか。

大台委員

失礼いたします。僕も小学校低学年の子どもたちと話ししたりですとか、中学生、高学年の生徒たちとしゃべったりすることもあります。低学年の子どもたちは、本当に平仮名一個きれいに書けるんやでということやうれしそうに報告してくれたりとか、それも本当に学びの基本のところじゃないかなと。できないことができるようになっていくとか、できてたものがより向上していくとか、そのときに報告してくれる子というのは、そういった報告をすると周りにいる大人たちは、すごいな、頑張っているんやと認めてくれたり褒めてくれたりという経験があったりして、そういったことが自分にとってうれしいなと感じているからこそ、認めてもらうような声かけを求めていけるようになっていくんだと思うんです。なので、できるようになったことを一緒に喜んでもらえたという経験が少なかったりすると、自分から求めていくということをなかなかしなくなっていきたりするんじゃないかなと。褒められていったり、うまくいけば認めてもらえるという経験が積み重なっていくと、好循環でどんどん学びのモチベーションが上がっていきたりするかもしれないと思うんですが、逆にそういった経験が少なかったりすると、どんどん自信をなくしていってしまったりですとか、学び自体の喜びとか楽しさを経験することが不安に感じたりしているんじゃないかなあと、子どもと向かい合ったりしている中では感じたりします。

質問とちょっとずれてしまうかもしれないんですけど、私自身がこう活動を通して感じたりするのは、学習意欲の向上ということに関しても、いろいろと学んだり新しいことを経験したり、飛び込んでいったり、チャレンジしたりすることになると思うんですけども、そこをしていくためには、自分が学校で安心、安全に過ごせていたりですとか、先ほど竹井委員がおっしゃったように家庭で心の栄養を満たされていく中で、新たな世界に飛び込んでいけたりするんじゃないかなあと感じたりするので、やはり生活習慣といったところで、学ぶことに関してエネルギーをしっかりと持てるような子どもの環境をつくってあげるというのは、本当に大事じゃないかなと感じています。

中村会長

大台委員、もう一ついいですか。先ほど三木委員がおっしゃった学びの限定性、これについては、何か感じる部分というのはありますか。

大台委員

はい、三木委員のお話聞いて本当にそうだなと感じました。

今は、おうちの中でもインターネットですとか、世界とつながるツール

があって、そういったところで、いろんな自分の興味あるところをどんどん掘り下げて行って新たな情報を得られたりして、世界が限定されているなど感じる事が本当に多いと思います。きっと自分に関心があるワードを検索にかけて、そのワードの中でぐるぐる回ることが多いと思うんです。

検索したワードから近いものしか情報を得られなくなるのが、日常生活でいろんな人と出会ったりですとか、ちょっと地域や外に出て実際の働いている方の様子を見たりとか、いろんな人と話をしていくと、きっと新たな今まで思いもしなかったようなことを知ったりですとか、日常生活の経験が広がることによって、自分のそういった興味が広がっていったりするんじゃないかなと、本当にそのとおりだなと思います。

中村会長

私、すごく、こだわっちゃっているんですね。その限定性って、やっぱり学習意欲は学習意欲なんだろうけど、検索をかけて、その学びが完結しているのかというか、学習が本当にこう意欲につながっているのかどうかっていうのは、私ちょっとぴんときていないところがあって、自分が本当に知りたい情報を検索かけてわかったふうになっているとしたら、それこそ何か学習意欲が深まっていないような気もするんですね。

限定性がある、あるいは学びそのものが、ともするとスマートフォンを通じた学びで、実際外村委員は、PTA会長等の職以外に看護の世界にも非常に深く入られていらっしゃるよね。看護の大学でも教えられているというところで、いわゆるソーシャルメディアというところではない、肉体的なというか、体温を感じるような関係から深められる学びというのが、僕はすごく大切なんじゃないかなと思う部分があって、それが何か学習意欲とつながってきたらどうなんだろうとも思うんですけども。今日一番難しいこと聞いています。申しわけありませんが、いかがですかね。

外村委員

興味の限定というところでは、昔に比べてツールが発達したことによって、より深く掘っていくことができているという点では悪くはないのかなと思ったりすることもあります。ただ、それはある程度いろんなことを知った大人でないとだめやなと思うので、子どもがそういう傾向を持つというのはよくないなと思います。やっぱり広い視野で、紙に書いてあったり、うそでも文字になるとすごく説得力があるじゃないですか。うそでもと言ったらおかしいですけど、ネットに載っていること自体、本当のことかというのは謎ですからね。だけど、納得してわかったつもりになれるというのはあると思います。

で、それを家庭生活の中で翻って見てみると、親もそうやってインターネットを見て知識を得ているという場面があるとするならば、それを子どもだけにだめというのは言えないというのが一つあって、そうすると、親自体が経験してきた、人と関わることによって学べてきたことを今度子どもにも戻していかなくちゃいけないというのは確かだなあって思います。

今、看護のことをおっしゃったので、少し触れさせていただくと、初めは机上の学びで初等教育が始まり、実際患者さんのところに出ていくことになるんですけども、そこからの成長度はもう半端ないです。人と触れ合って、人から感じたり、自分が学んできたことがどう生かせるのか、ま

た生かせられないのか、それに対していろんな人から、教員であったり、臨床の人からもいろいろ言われて、こんな考え方もあるっていうこと、いろんな刺激を受けることですごく成長していくところを毎年見せてもらっているんですけども、学習意欲って、目的とか喜びとかがなかったらやっぱり無理ですよ。ただ単にやっているだけでは、なかなか難しいとすると、認めてあげられる場面を、先ほど大台委員がおっしゃったように、平仮名一つ書けただけでも褒めてあげられる、そういう小さな成功体験をやっぱり積み上げていくことで学習意欲を高めていく、学力ではなく、何かを知りたいと思う、でもそれをいろんな人と関わって知りたいと思えるようなことができるといいなあと思いました。

話ははずれますけれども、勉強するときにはやっぱり大事なものは、心と体の健康ですよ。ちょっとお腹もすいているといらいらもしますし、心が乱れていると勉強にも集中できないとすると、そこを整えなあかんというところは大事なかなと思います。

アンケートの中にも出てきているように、中学校になるにつれて自分は健康ではないと思っているというところは、きっといろんな意味合いがあるんでしょうけれども、そう言いながらも何か夢に向かって頑張れる、今やるべきことをやろうとするような雰囲気づくりとか、方向性を示せるような、取り組みができたらいいなと思いますし、私、振り返って子どもを褒めてきたかなと思うと、いやなあと思いますね。自分自身が親から褒められたかという、ううんとなると、それはやっぱり伝達していくんやなという気がしますので、何か褒めるとか認めることの意味を親自身ももっと深めて、もっとやれと言うのは簡単やし、もっとやってほしいとは思いますが、60点やったら60点なりの意味がきっとその子にはあるわけやからというのを振り返ると、子どももどう思ってるんかなと思っています。

竹井委員

今、外村先生がおっしゃったことで、大人だったらというの、私もお話を聞きながら、対象年齢をもう少し細かく設定して話をしていくとするならば、幼児は「見て、見て」と言うんですよ。自分がしていることがこんなにできるんだよということ、見て、見てと言って、そのときにちゃんと目を合わせて褒めてあげると、また次、新しいことに挑戦しようと思いますし、小学校の低学年の間は、自分ができなかったことができるようになる喜びがすごく大きく、認めてもらいたい。で、10歳の壁とよく言いますが、10歳以降はちょっと違って来るんですよ。単純に褒めるだけでは満足しませんし、自分がやっている中身を正當に評価してもらったら意欲が出てくるというようなこともありますし、もう少し大きくなってくると、さっきの興味の限定性という言葉、すごく頭にインプットされたんですけど、年齢が上がるにつれて、この興味が一つになっていてもいいなあと思うんですけど、小さいうちはいろんな体験・経験をしてほしいし、その体験・経験も、インターネットとかじゃなくて、親の表情であったり親の言葉かけであったり。周りの大人のいわゆる空気を読むじゃないですけども、言葉で書いたら「いいねえ」でも、その「いいねえ」の中に含まれる言葉が心から言ってくれているとか、親が何かしながら「ああいいねえ」って言ってたら、何かそんなのがわかるわけじゃないですか。そこが人のつながりだろうと思うんですけども、どうしても大人もこの

頃、子どもが何かしているときにスマホとかに夢中になっている、あるいはテレビに夢中になって、ちゃんと目と目を合わせて子どもの言うことを真剣に聞いてとかというのがだんだんなくなってきたら、子どもはそれを求めることすらなくなってくると思うので、そこら辺がやっぱり親子関係とか、それから他者とのつながりといった中で大事になってくるんじゃないかと。その表情がわかる、相手の気持ちがわかる言葉かけというのを積み重ねて、それが成功体験が増えていったら子どもは、自発的にいろんなことをする子になっていくんじゃないかなあというのを、先生方の意見を聞きながら思いました。

中村会長

ありがとうございます。

最後御発言された点って非常に重要ですよ。単純にインターネットで載っている情報、あるいは紙で見た情報、それだけじゃなくて人と人とながらることによって、見えてくるものというのはある。ただ、竹井委員がおっしゃるように、目も見ないでふんふんと言ってるようじゃあ、やっぱりこれは学びにつながらないということですよ。つまり、コミュニケーションといっても、そこに体温みたいなものが感じられるようなことであったり、あるいはその言葉自体に重みを持たせるようなものであったり、それでちょっと身体性を伴うような言葉の対応というか、それがあってこそその意欲の醸成につながっているんだなというのは、私自身も今日、議論の中で改めて勉強させていただいた部分ですね。

学校教育も、先ほども言いました学習指導要領も変わるというところは、これまでは何を知っているかとか、何ができるかとか、そんなことばかりやってきたという経緯がありますよね。ところが、予測不可能な時代、世界に向かおうとしたときは、先ほど三木委員おっしゃいましたけれども、何を知っているか何ができるか以上に、自分はどうかあるべきかとか、自分はどうしたいのか、どうなりたいのかとか、そういったいわゆる本当にロールというのが、ものすごく重要になってくる時代に入ったなど改めて思いましたね。ロールプレイではなくて、ロールテイク、つまり自分自身はどうしたいのか、どうありたいのか、最終的にはそういったところが学習意欲につながって落ちてくるんじゃないかなと改めて今日は感じた次第です。

次回以降、このすごくややこしい問題をどういうふうに具現化していくのか、また議論を深めて先生方に御意見賜りたく思います。貴重な意見ありがとうございました。

6. 報告

・平成28年度 南区教育・健全育成相談窓口 相談内容について

中村会長

続きまして、報告案件に移りたいと思いますけれども、事務局に説明を求めます。よろしく願います。

事務局

(資料7に基づき、平成28年度の南区教育・健全育成相談窓口の相談状況について説明)

中村会長

事務局より報告がございました。

御意見等、ございますでしょうか、ただいまの件につきまして、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。それでは、続きまして、この相談内容につきまして、詳細の説明等を事務局から御報告させていただきます。

本件につきましては、個人情報関係もありますので、非公開とさせていただきます。恐れ入りますが、事務局以外の傍聴の方は御退出をお願いしたいと思います。

(傍聴者退出)
(相談員より報告)
(質疑応答)

中村会長

以上をもちまして、本日の案件は終了となります。委員の皆様、この際ですので、ほかに何かございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

7. 閉会

中村会長

これもちまして、本日の会議は終了させていただきます。

議案内容に対する意見や何か御不明な点など遠慮なく事務局へ申し出ていただきたいと思います。委員の皆様には貴重な御意見をいただきましてありがとうございました。これから2年間の任期の中で、皆様とともに南区の子ども教育・健全育成がより一層進むよう御協力をお願いいたします。

それでは、事務局に返します。

事務局

ありがとうございました。

次回の会議の日程ですが、5月26日、金曜日を予定しております。

またよろしく申し上げます。

本日は皆様、お忙しいところ本当にありがとうございました。

閉会 (午後7時50分)